

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	建築製図 I	担当教員	鶴田佳子 清水隆宏			
学年学科	1 年 建築学科	通年	必修	2 単位	別表 1 対象科目	
学習・教育目標	(D-2 設計・システム) 100%					
授業の目標と期待される効果： 本授業では、入学後の建築製図教育開始に当たり、基本的な製図用具の使い方や描線技術を修得した後、木造住宅の製図法を理解するとともに、木造建築物の設計基礎を修得する。また、CAD の基本的操作を修得し、CAD を用いた図面作成の技能を修得する。 目標 1) 製図用具の基本的な使い方の修得 2) 描線技術修得 3) 製図方法修得 4) 木造住宅製図法の修得 5) CAD の基本操作の修得 6) CAD を用いた図面作成技能の修得 7) 木造建築物の基礎的設計		成績評価の方法： 課題提出によって評価を行う。前期は 4 課題×100=400 点、後期は 3 課題 (100 点+100 点+200 点) 計 400 点とし、前期・後期の重みを等しくして総得点率 (%) によって成績評価を行う。ただし、一つでも未提出の課題がある場合は、不合格とする。また課題提出は時間厳守とし、期限に遅れた場合は減点とする。 達成度評価の基準： 教科書記載の製図例と同等レベルの製図課題を行い、6 割以上の完成度に達していること。 ・製図用具の使用方法をほぼ正確に理解している (6 割) ・描線がほぼ適正かつ正確にできる (6 割) ・J I S 製図通則をほぼ正確に理解している (6 割) ・木造住宅の製図方法をほぼ正確に理解している (6 割) ・CAD を用いてほぼ正確に描線できる (6 割) ・CAD を用いて平面図をほぼ正確に描線できる (6 割) ・木造建築物の基礎的設計技能をほぼ正確に理解し、設計できる (6 割)				
授業の進め方アドバイス： 始めに建築図面を描くための基礎として、描線演習→図面のトレース→CAD 演習を行う。課題にあたっては提出期限を常に意識して、自ら課題作成のスケジュールを立てそれを実行すること。スケジュール管理を身につけるために自己によるスケジュール作成とそのセルフチェックを実施する。 授業内容に関連する教科書のページを熟読し、建築製図における線の意味を理解し、一本一本意識しながら描写すること。後期後半では小規模木造建築物の設計を行う。設計にあたっては身近にある建築物の実測を通して理解を深めることとする。						
教科書および参考書： 教科書：・建築設計製図 (実教出版) ・「やさしく学ぶ J w c a d デラックス」(ObraClub、エクスナレッジ) 参考書：第 3 版コンパクト建築設計資料集成 (日本建築学会編 丸善)						
授業の概要と予定：前期 (鶴田)					AL のレベル	
第 1 回：製図用具の購入・製図用具の使い方・授業の進め方						
第 2 回：描線・文字の練習 1 (鉛筆仕上げ)					C	
第 3 回：描線・文字の練習 2 (鉛筆仕上げ)					C	
第 4 回：描線・文字の練習 3 (鉛筆仕上げ)					C	
第 5 回：J I S 製図通則講義						
第 6 回：木造住宅平面図トレース 1					C	
第 7 回：木造住宅平面図トレース 2					C	
第 8 回：木造住宅平面図トレース 3					C	
第 9 回：木造住宅平面図トレース 4					C	
第 10 回：CAD の基本操作演習 1					C	
第 11 回：CAD の基本操作演習 2					C	
第 12 回：CAD の基本操作演習 3					C	
第 13 回：木造住宅立面図・断面図トレース 1					C	
第 14 回：木造住宅立面図・断面図トレース 2					C	
第 15 回：木造住宅立面図・断面図トレース 3					C	
フォローアップは各課題返却時に随時実施						

授業の概要と予定：後期（清水）	AL のレベル
第16回：木造住宅矩計図トレース1	C
第17回：木造住宅矩計図トレース2	C
第18回：木造住宅矩計図トレース3	C
第19回：木造住宅矩計図トレース4	C
第20回：CADを用いた平面図トレース1	C
第21回：CADを用いた平面図トレース2	C
第22回：CADを用いた平面図トレース3	C
第23回：CADを用いた平面図トレース4	C
第24回：小規模木造建築物の設計1	C
第25回：小規模木造建築物の設計2	C
第26回：小規模木造建築物の設計3	B
第27回：小規模木造建築物の設計4	C
第28回：小規模木造建築物の設計5	C
第29回：小規模木造建築物の設計6	C
第30回：フォローアップ（課題返却など）	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	製図用具の使用方法を正確(8割以上)に理解している。	製図用具の使用方法をほぼ正確(6割以上)に理解している	製図用具の使用方法を理解できていない。
②	描線が適正かつ正確(8割以上)にできる	描線がほぼ適正かつ正確(6割以上)にできる	描線がほぼ適正かつ正確にできない
③	J I S 製図通則を正確(8割以上)に理解している	J I S 製図通則をほぼ正確(6割以上)に理解している	J I S 製図通則を理解できていない
④	木造住宅の製図方法をほぼ正確(8割以上)に理解している	木造住宅の製図方法をほぼ正確(6割以上)に理解している	木造住宅の製図方法を理解できていない
⑤	CADを用いて正確(8割以上)に描線できる	CADを用いてほぼ正確(6割以上)に描線できる	CADを用いて描線できない
⑥	CADを用いて平面図を正確(8割以上)に描ける	CADを用いて平面図をほぼ正確(6割以上)に描ける	CADを用いて平面図を描くことができない
⑦	木造建築物の基礎的設計技能を正確(8割以上)に理解し、設計できる	木造建築物の基礎的設計技能をほぼ正確(6割以上)に理解し、設計できる	木造建築物の基礎的設計技能を理解し、設計できていない